

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	コンビニ（店 長）	来客数の動き	・天候が良いので、3か月前に比べ来客数が前年比20%増とかなり増えた。
		百貨店（売場担 当）	お客様の様子	・売出しの内容を変えたことで、売上が前年を上回った。特に気温に見合った衣料品の動きが良かった。客はやはり値ごろ感があって良い商品を求める。来客数の動きは変わっていないが、明るい雰囲気を感じる。
		百貨店（業務担 当）	販売量の動き	・少し立ち上がりが遅かった春物衣料、身回品に動きがみられるようになった。季節の変わり目としては、ここ最近では力強い動きであった。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・昨年影響を受けた消費税総額表示導入の反動もあり、売上は前年に比べ非常に良い状態が3月から続いている。それだけではなく、単価が高いものも、そこそこ売れるようになってきた。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・昨年の消費税総額表示導入の反動で、今年は前年に比べ客数がかなり増えてた。これまで落ち込んでいた衣料品部門の客数が増えている。
		スーパー（店 長）	単価の動き	・昨年は鳥インフルエンザが流行し、生肉の売上が厳しかったが、今年は回復基調にある。買上単価も横ばいから微増となっている。
		コンビニ（経営 者）	単価の動き	・依然として前年割れを続けている状況は変わらないが、3か月前に比べ減少幅が縮小し、改善がみられる。ただし、来客数の増加に対して客単価が低い状態は依然として続いている。
		衣料品専門店 （店長）	来客数の動き	・天気がいいということもあり、出かける人が増えている。
		家電量販店（企 画担当）	販売量の動き	・全体的に販売量が若干上がってきている。液晶テレビ等の大物商品の動きがいいようである。
		高級レストラン （スタッフ）	それ以外	・福岡県西方沖地震や、その後の余震の影響で、客足が伸びない。損壊した設備の復旧も完全でない。
	通信会社（管理 担当）	お客様の様子	・今年は例年になく、年度当初の受注量の立ち上がりが早い。	
	変わらない	商店街（代表 者）	来客数の動き	・今月はフレッシュマン、新入学、就職等で盛り上がる月であるが、中心商店街への来街者、来店客数が昨年よりかなり減った。
		商店街（代表 者）	販売量の動き	・客数、客単価とも依然として低調である。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・今月は卒業、入学、就職と物入りの月で、買い控えが目立っている。また、福岡県西方沖地震の影響で客の引きが早く、夕方5時になると客足が途絶える。
		商店街（代表 者）	販売量の動き	・気候が良くなり人が動く時期になったが、福岡地区では地震や余震の影響で人の動きが急に止まり、売上が増えていない。
		商店街（代表 者）	販売量の動き	・今月始めは菜の花祭り等のイベントがあり、客数は多かったが、それに伴う販売量は少なかった。
		一般小売店〔鮮 魚〕（店員）	来客数の動き	・店の前の道路工事が終わりに近づき、やや客が戻ってきたみたいだが、福岡県西方沖地震の影響か魚が少なく、思うように棚を作れない。
		百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・ここ何か月同じような事が言えるが、客が積極的に洋服を買う様子が見られない。福岡県西方沖地震が発生する等、暗い雰囲気も原因である。
		百貨店（総務担 当）	来客数の動き	・期待した春物衣料品の動きが鈍かった。また、飲食・レストランも来店客数が伸び悩んでいる。
		百貨店（営業担 当）	販売量の動き	・全国に比べ当店は特に低迷している。昨年オープンした郊外店の影響が依然として続いている。
百貨店（営業担 当）		競争相手の様子	・5月19日に宮崎市内に大型商業施設がオープンするが、市内商店街では早くも空き店舗が発生している。	
百貨店（営業担 当）	販売量の動き	・福岡市天神地区では震度5強の地震が発生し、当日の売上が大きく減少した。ただし、その後の動きは堅調で、4月の月間売上は前年並みである。		
スーパー（経営 者）	販売量の動き	・客は無駄買いがなくなっている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食料品は前年比104%で推移しているが、衣料品は冬物・春物衣料がほとんど売れず、同78%と不調であった。衣料品はここ2年ずっと前年割れが続いている。総合的には同98%である。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・客単価が減少傾向にある。買上点数の減少が影響している。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・福岡県西方沖地震の影響はあったが、比較的落ち着いた販売量の動きが続いている。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・以前であれば、数名で客が来店すると、全員が何かしら購入していたが、最近はそのうち何も購入しないで退店する客を目にする。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店向け商品は前年比11.3%減、コンビニ向けは同4.6%減、ローカルスーパーは同8%増である。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・既に初夏の陽気であるが、客数、売上ともに冷え込んだままである。
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・今年はなかなか暖かくならず、春物の立ち上がりが遅れた上、春らしい気候が続かず、すぐに暑くなってしまったため、春物衣料の販売期間が短く、苦戦した。現在は初夏物を販売しているが、一品単価が低く、客単価が上がらない。また、客は必要がないと来店しなくなっている。
		衣料品専門店（店員）	単価の動き	・3か月前はセール時期で、冬物だったため単価も上がったほか、来客もそこそこあった。しかし現在は、プロパーで出来るだけ安く見栄えのいいものが売れており、安ければよい、という客が非常に増えてきた。少し無理していいものを買おうという客がほとんどいない。お金を持っている人とそうでない人で二極化している。
		衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・特設会場で健康器具、お茶、ビタミン剤、健康食品のフェアを開催したところ、客の反応が良く、売上の増大につながった。特に年配者の健康に対する関心が高い。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・デジタル家電の伸びが好調と聞くと、それらが売れてやっと前年並みであり、他の商品は売れていない。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・客数、客単価及び個数が低下している。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・デジタル家電の業績により前年をキープしているが、白物家電を中心とするその他の部門が停滞気味である。
		家電量販店（総務担当）	お客様の様子	・薄型テレビやDVDレコーダー等の単価下落が続く、販売量が伸びても売上はさほど増加しない。また、3・4月の移動マーケットが年々縮小している。
		乗用車販売店（管理担当）	お客様の様子	・新車のイベントをしても、実際に受注に結びつくことが少なくなっている。原油の値上がりで、大きな車から小さな車への買替が増えている。また、中古車を見に来る客が増えているほか、整備に来る人も増えており、新車販売がやや落ちている。
		住関連専門店（経営者）	単価の動き	・来客数は多くないが、先月に引き続きブライダル家具等の動きがぼちぼちあった。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・今月も燃料油の元売仕入価格が上昇した。現金小売価格を連動させたため上昇したが、販売量はさほど変化がない。価格だけを購入動機としている客は、燃料油に限ってセルフサービスを利用している。
		その他小売 [雑貨卸]（総務担当）	販売量の動き	・依然として景気回復の兆しが見えてこない。リフォーム関連の業種がやや良いが、これもパイが限られているため、価格競争は避けられず収益が悪い。
		高級レストラン（経営者）	競争相手の様子	・行楽シーズンというのに、団体客の回復が思わしくない。
		その他飲食 [居酒屋]（店長）	来客数の動き	・天文館の繁華街に客が来ず、花見客だけが少なかった。また、異動や歓送迎会のビジネスマンが一向に来ず、来店客数がびっくりするほど少なかった。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・今月は全部署において前年比、目標売上をクリアしている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィークにもかかわらず、宿泊の予約率が上がらない。福岡県西方沖地震のせいだけではない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・福岡県西方沖地震の影響がゴールデンウィークの日並びが良いにもかかわらず前年並みである。中国ツアーの団体に取消が多い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・天気が良かったせいか、タクシーの利用が昼が少なく夕方から夜にかけて急に増える感じでむらが多かった。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・携帯電話の新規契約は2月から4月前半までは年間でも最大の販売台数が上がっているが、4月中旬以降は新規とともに買替えの販売台数も大きく落ち込んでいる。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・観光施設については去年は新幹線の開業効果があったが、今年はそれが全くない状態で一昨年と同じような状態になっている。入園者は昨年より20%以上減であり、ゴルフ場についてもいいのか悪いのか全く解らない。入場者は昨年より20%落ちている。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・3、4月は大体忙しい月である。人が動くお洒落の楽しみ、そして心躍る季節であるから何かと活性化して景気回復になってくるが、あまり変わらなく推移している。
		設計事務所（代表取締役）	お客様の様子	・国の補助金の見直しや税収の減少により、地方自治体の財政状況が厳しく、公共事業が手控えられている。市町村合併により特需的な事業の発注がいくらかみられるが、全体としては悪い状況に変化はみられない。
やや悪くなっている		商店街（代表者）	来客数の動き	・先月は佐賀城下ひな祭りがあり、人手が多かったが、今月は平常に戻り、人通りが少なくなった。来街者はお年寄りがほとんどで、若者が来ない。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・衣料品の回転率の低下に加え、生鮮食品の回転率も低下傾向にある。催事での店頭売上も伸び悩んでいる。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・福岡県西方沖地震の影響がかなり出ており、個人消費は高齢層を中心に慎重になっている。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・景気が回復してきていると言われているが、一般消費者においてはまだまだ回復しているようには思えない。さらに3月の福岡県西方沖地震が心理的に消費を抑制している。通常であれば夕方以降や休日の売上が見込めた化粧品等の売上も落ち込む等、客の行動パターンが変化している。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・同じ商圏内に大型ショッピングモールがオープンし、客数が大幅に落ちた。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客数は前年に比べて若干減少したが、客単価が大きく下がっている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・客数、客単価とも昨年を大幅に下回っており、特に客単価の下落が大きい。客の財布のひもが固くなっている。
		その他専門店〔医薬品〕（従業員）	お客様の様子	・3月は備品関係の季節商材が少し動いたが、今月はまだ夏物は一部しか動いていない。
		高級レストラン（専務）	競争相手の様子	・新幹線の開業効果が落ち着き、商圏が広がって競争相手が多くなったことに加え、近隣に大きな商業施設ができ、店を閉めるところが多くなった。これからが心配である。
		都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・福岡県西方沖地震発生以来、ビジネス客以外の利用が極端に減っている。
悪くなっている		タクシー運転手	お客様の様子	・これ以上下がらないところまで下がったが、給料も下がった。今年に入って若干物価が上昇傾向になり、金を使うことにナーバスになり、客単価が上がらない。景気は少し下向いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・食品の競争店やドラッグチェーンが立て続けに出店し、客数減、売上減の厳しい状況が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・桜の開花が遅れ、実質的な花見期間が短かったために花見商材が伸長しなかった。また、新入学・就職用品への出費やゴールデンウィークへの出費を考慮した買い控え傾向があったほか、大型商業施設、ドラッグストア等の開業の影響で、客単価に加え、特に客数の減少が大きかった。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月始めまではまあまあ客も予約も入っていたが、それ以降予約がほとんどなくなり、例年より悪くなった。2、3か月前に比べ悪い状況に向かっていることに加え、会社関係の予約が多い当店にとって、ゴールデンウィークはかなりの悪影響となった。
企業動向関連	良くなっている	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注は非常に良く、契約額も上がった。半年分の工事は既に受注しており、これ以上もう受注できない状態である。現場員が足りない。
	やや良くなっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・心配された鳥インフルエンザの問題もなく、また好天に恵まれたこともあり、スーパー向けの加工品が伸びている。また、加工メーカーの原料肉の供給も、輸入物が入ってこないこともあり、引き合いはかなり強い。現状のお得意様の要求に対応できない状態である。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・家具業界の繁忙期である3月の余韻が4月も続いており、受注額は前年比110%となっている。インテリア各社の動きも婚礼シーズンを迎え、一部生産を始めているメーカーもある。ただし、上向きの予測も不安定なため、生産側も慎重に生産計画を立てている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・福岡県西方沖地震の影響から少し回復し、商品の荷動きはかなり良くなっている。久しぶりに前年を上回った。
		その他サービス業〔物品リース〕（役員）	取引先の様子	・中小企業を中心とする取引先の会話の中で、以前より若干上向きにあるという企業が増えてきている。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（取締役）	取引先の様子	・全体的には景気は横這いか少し上向きであるが、メーカーである当社は受注量確保と売上拡大が相当厳しい。最終的には設備投資をなかなか回収できない。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連は、全般的に動きが不透明であり、受注が決定しても短納期で、実質的な単価の悪さが目立ってきている。現状では忙しい割には利益が出てこない。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・一時は愛知万博景気で非常に忙しかったが、ここに来て一段落した。今後、元に戻るかどうか非常に不安である。
		経営コンサルタント	それ以外	・2、3か月前と比べてもあまり大きな変化はない。急に暖かくなった関係もあるが、人出が多く飲食関係は割と客が増えている。ただし、原油価格の上昇で、燃料関係の危機感をつのらせている企業経営者が多い。総合するとあまり変わらない。
		経営コンサルタント	受注価格や販売価格の動き	・調査の件数は増えているが、個別の契約価格の単価が以前より落ちている。
	やや悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3、4月は移動の時期で、例年であれば購買、受注ともに多かったが、今年はそれが少なく、1、2月より悪くなった。卸商社が倒産するということもあり、製造業者は大変苦労している。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・酒を卸している飲食店は、前年比70%程度と客足が遠のいている。連動して酒屋の売上も減少傾向である。
	悪くなっている	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・まだ同業者の工場閉鎖が続いている。国内工場が少なくなってきたにも関わらず、まだ仕事は満たされず、逆に閉鎖や休止を行う工場が少なくない。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・最近派遣の注文のキャンセルの理由の中に、正社員を採用したから、というものがみられる。直接雇用が成約した件数が多くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・業界全体で、派遣社員の登録数が不足し、依頼に答えきれないケースが増えてきた。料金設定も高めに移行しつつあり、雇用状況は改善に向かっている。
		新聞社 [求人広告] (担当者)	採用者数の動き	・求人広告に動きが出てきた。
	変わらない	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・例年 4 月は求人も一段落するが、今年は求人件数も伸び、求人市場は活発に動いている。求人倍率が高くなり、補充しきれなくなっている。労働力のアルバイト・パート化で、学生や主婦への需要が高まっているためと考えられる。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数は総じて堅調に推移している。ただし、全体を押し上げているのは、派遣、請負事業者の求人やパート求人である。
		職業安定所 (職員)	求職者数の動き	・雇用保険を受けるための離職用の箱や、職業相談の窓口の混雑状況が、昨年に比べずいぶん減少している。3月に定年や期間満了で退職し、安定所を経由せずに就職している求職者が今年は多くなった。
		民間職業紹介機 関 (支店長)	求人数の動き	・人材派遣需要のピークが一段落した。求人数は前年並みで、大きな変動はみられない。新年度の派遣料金単価の交渉結果では、好況業種の一部に限ってのみ 2 ~ 3 % の料金アップが認められた程度である。
やや悪く なっている				
悪く なっている	-	-	-	